

電子音楽なう!

vol. 3

石上 和也 「自作・シンセもどき "HOGE HOGE MACHINE" による即興演奏」

泉川 獅道 「泉川獅道」

大谷 安宏 「guittaarre」

門脇 治 「テープのための音楽 Musique pour ruban」

中川 善裕 「variations of the sea」

林 恭平 「蝶」 演奏：山田あい子

平山 晴花 「Friskoto」(2014) *世界初演

RAKASU PROJECT. 「壇ノ浦」

2014年7月12日 (土)

18:00開場 18:30開演 2,000円 @CAP CLUB Q2



「電子音楽なう」シリーズは、「なかなか普段のメディアでは触れられることが少ない電子音楽、広く客層の裾野を広げる意味で、気軽にマジメな電子音楽/コンピュータ音楽に触れられるライブイベント」です。



石上 和也 ISHIGAMI Kazuya

1972年3月 大阪生まれ。高校時代にノイズやミュージック・コンクレート等に興味を持ちマルチトラック音響作品を作り始める。1990年、大阪芸術大学音楽学科音楽工学コース入学。1997年、INA-GRMでの夏期アトリエ参加。2005年9月、DRドイツ国営放送にて[Sonic Escapism]初演・放送。2006年6月、DRドイツ国営放送にて委嘱作品「2nd49」初演・放送。2008年12月、DRドイツ国営放送にて[Whisper of Sound God]放送。2010年2月、OMEGA POINTからアコースティックCD作品集「発心の兆」リリース。2012年12月、実験音楽雑誌「音人」発行。2012年3月、「神戸電子音響音楽祭」主催。SPEAKERS ORCHESTRAメンバー。



泉川 獅道 IZUKAWA Shido

尺八奏者、サウンドプロデューサー、音文化研究者。幼少より西洋音楽教育を受け、ピアノや作曲、さまざまな楽器の演奏法等を学ぶ。大阪芸術大学にて電子音響音楽の創作、仏教芸術としての「虚無僧尺八」の演奏、研究の世界に身を投じ、尺八古典本曲を研究した博士論文と現代音楽作品（テーマ：コンピュータを活用した先端テクノロジーと伝統音楽の融合）の創作により芸術博士号を取得修了。伝統的な文化背景・脈絡、楽器がもたらす身体性・精神性等を根本に「古くて新しい」日本の電子音響音楽を追究している。グローバル尺八ユニットKurofune、Speakers Orchestraメンバー。東洋音楽学会、情報処理学会会員。大阪芸術大学、神戸山手短期大学非常勤講師。



大谷 安宏 OTANI Yasuhiro

音楽家。ギターとコンピュータで即興〜ジャズ〜電子音響 ライブイベント「U-Gen laboratory」,「とらわれのギター」オーガナイザー。ロックフェラー財団日本芸術交流プログラム助成アーティスト。日本電子音楽協会会員。日本作曲家協議会会員。



中川 善裕 NAKAGAWA Yoshihiro

札幌生まれ。北海道教育大学札幌教員養成課程（音楽）、東京芸術大学音楽学部作曲専攻、同大学院音楽研究科作曲専攻修士課程卒業。これまで作曲を木村雅信、南弘明、黛敏郎、林光の各氏に師事、電子音楽法を南弘明氏に師事した。長谷川良夫賞受賞（東京芸術大学）、第58回日本音楽コンクール作曲部門（室内楽）入選、第25回交響楽振興財団作曲賞入選・奨励賞受賞。現在、埼玉工業大学人間社会学部情報社会学科デジタル表現コース（教授）、東京芸術大学（非常勤講師）、洗足学園大学（非常勤講師）。日本電子音楽協会、日本作曲家協議会、先端芸術音楽創作学会、各会員。



門脇 治 KADOWAKI Osamu

1964年塩竈市生まれ。宮城教育大学卒および同大学院修了。作曲を故本間雅夫、吉川和夫の両氏に師事。



林 恭平 HAYASHI Kyohei

1984年福井県で生まれる。2012年、大阪芸術大学大学院作曲コース修了。セツ矢博資、上原和夫、宇都宮泰、楡垣智也、に師事する。在学中より、電子音楽の創作を行い、芥川龍之介の提唱する「話らしい話のない小説」を電子音、具体音によって表現した文学性に溢れた電子音楽作品は、国内外で多数、入賞、入選を果たし高い評価を得ている。また、音楽作品だけではなく、映像制作も同時に行っている。日本電子音楽協会会員。日仏現代音楽協会会員。
入賞・入選歴 <2013: 『sakura』 International Computer Music Association 入選 / 『Expressionless bicycle rider OK』 Nit electro sonora(スペイン) (映像作品) 入選 > <2011: 『sonic lady city』 Prix Russolo(フランス)入選 / 『L'Etranger』 Contemporary Computer Music Concert(日本) MOTUS賞 > <2010: 『action painting music』 Contemporary Computer Music Concert(日本)入選 / 『Stained-glass windows the sky』 Concertzender Nederland (ラジオ) (オランダ) > <2013: 『sakura』 International Computer Music Association (オーストラリア) / 『Expressionless bicycle rider OK』 Nit electro sonora(スペイン) > <2012: 『Broadcast Yourself』 SYNTAX 11.2 L'Art radiophonique(フランス) / 『sonic lady city』 Traces de sons(フランス) / 『L'Etranger』 Futura(フランス) > <2011: 『L'Etranger』 elektromatic(ウェブラジオ) (フランス) > <2006~2009: Audio Art Circus 06.07.09.2010(日本) > CD出版 <2012: "Eros Weapons" Studio Forum Monochrome Vision (ロシア) >



平山 晴花 HIRAYAMA Haruka

新潟県出身。6歳よりピアノを習い、国立音楽大学音楽デザイン学科(現 音楽文化デザイン学科)にて作曲、コンピュータ音楽を葉孝之、コート・リッピ各氏に師事。同大学院修士課程修了。現在、マンチェスター大学NOVARS研究所にてエレクトロアコースティック作曲の博士課程に在学中。リカルド・クリメント氏に師事。2005年、第32回ブルジュ国際電子音楽コンクールレジデンス部門においてソプラノサクソフォンとコンピュータの為の作品Swallow がレジデンス賞を受賞。また2012年にはAWM主催女性作曲家によるSearch for New Musicコンクールエレクトロアコースティックメディア部門においてポーリン・オリヴェロス賞を受賞。作曲家としての活動は国内での作品発表に留まらず、ストックホルム電子音楽スタジオ(EMS)でのコンポーザーインレジデンスや、パーゼルを拠点としているChaotic.moebiusからの器楽曲の委嘱、また、国際音楽祭や会議における音楽作品の入選など多岐に渡る。現在まで作品は日本、スペイン、アメリカ、フランス、スウェーデン、ドイツ、カナダ、イギリス、オーストラリア、スイス、オランダ、韓国各国で演奏されている。



RAKASU PROJECT (落 兎子)

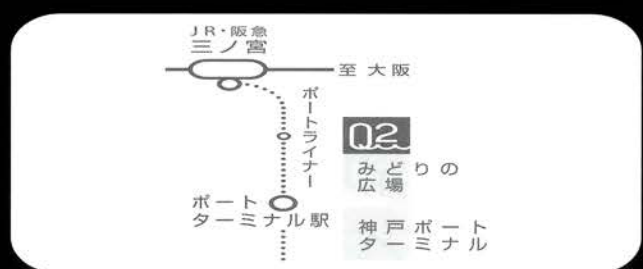
京都市在住。音楽家。広島大学学校教育学部(現・教育学部)中学校教員養成課程音楽科卒業、広島大学大学院学校教育研究科音楽教育専攻修了。電子音響音楽から商業音楽制作まで、幅広い活動を行う。坂本龍一・矢野顕子プロデュースアルバム「Demo-Tape1」、坂本龍一トリビュートアルバム「music plans skmt tribute」参加。2005年には「昭和40年会 七人も侍」展(広島市現代美術館)にて、土佐正道、九十九清美とともにバンド「前明和電機社長土佐正道とThe広島グッドデザイン」(現:「明和電機会長土佐正道とThe広島グッドデザイン」)を結成。広島と東京でライブ活動を行う。2006年から、サウンドアーティスト有馬純寿とラップトップデュオユニット「RP5A」を結成、全国各地でライブ活動を行うほか、フジタダイスケ、酒井康志、寺内大輔、船田奇琴、等、多数のアーティストと共演。近年では、コンピュータに内蔵された各種センサーを使用したパフォーマンスや、Max/MSPやGainerを活用したサウンドインスタレーション制作なども手がけている。現在、京都精華大学ポピュラーカルチャー学部 特任准教授。同志社女子大学と帝塚山学院大学で非常勤講師を務める。

日時 2014年7月12日(土) 18:00開場 18:30開演
料金 2,000円
会場 CAP CLUB Q2 〒650-0041 神戸市中央区新港町4-3 上屋Q2
http://www.cap-kobe.com/club_q2/

お問合せ 日本電子音楽協会事務局
info-jsem@jsem.sakura.ne.jp

C.A.P.事務局 (10:00-19:00/月曜休み)
TEL: 078-222-1003
info@cap-kobe.com
<http://cap-kobe.com>

主催 C.A.P. (芸術と計画会議) / 日本電子音楽協会
協賛 株式会社ジーベック
構成 公益社団法人企業メセナ協議会
企画構成 石上和也、由雄正恒
美術照明 サカイヒロト、植田宏美
イラスト pikkoro



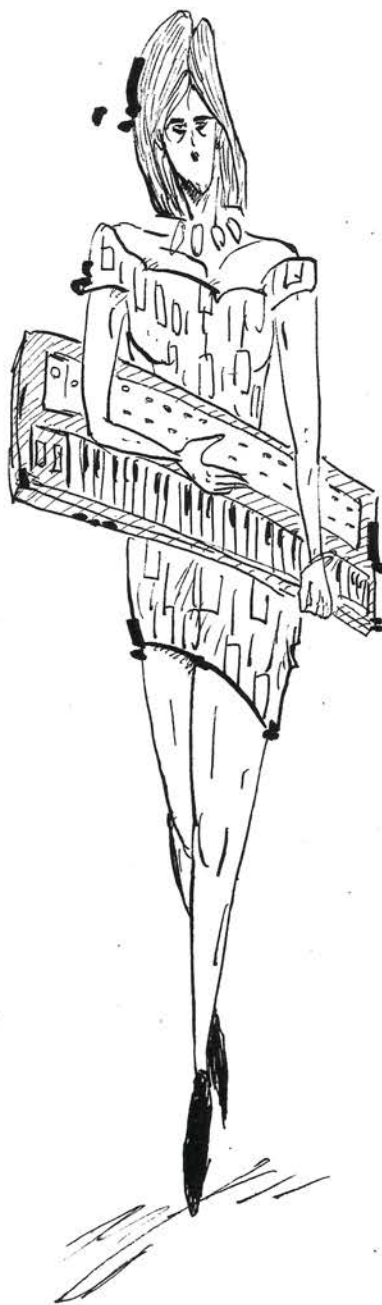
会場の場所は分かりにくい。三宮駅からポートライナーのポートターミナル駅で下車いただく、改札を出てすぐ左手の階段室に入るための小さな暗いドアにA1サイズの「Q2」案内シートが貼り付けてあります。このドアから階段を1フロア分降りてください。以降、同様の案内シートをたどっていただければ、会場にたどり着くと思います。途中、「たこぼろ亭」というレストランのバックヤードみたいなどころも通ります。「えっ、まさかこの道?」というところを勇気を出して来て下さい。会場は港湾関係事務所に使われていたところです。トイレも少なく、ご不自由おかけしますが、よろしくお願ひいたします。

CAP CLUB Q2: 078-959-7707

※ 会場への問い合わせは当日のみ応答できません。

電
子
音
楽
な
う

! vol.3



2014年7月12日(土) 18:00 開場 18:30 開演

@CAP CLUB Q2

神戸市中央区新港町 4-3 上屋 Q2

「電子音楽なう」は、“なかなか普段のメディアでは触れられることが少ない電子音楽。広く客層の裾野を広げる意味で、気軽にマジメな電子音楽／コンピュータ音楽に触れられるライブイベント”です。

出演：石上 和也、泉川 獅道、大谷 安宏、門脇 治、中川 善裕、林 恭平、平山 晴花、RAKASU PROJECT.

主催：C.A.P.（芸術と計画会議）／日本電子音楽協会

協賛：株式会社ジーベック

助成：公益社団法人企業メセナ協議会

企画構成：石上和也、由雄正恒

美術照明：サカイヒロト、植田宏美

フライヤーイラスト：pikkoro

<タイムテーブル *予定*>

18：30～18：45 石上和也

転換 5 分

18：50～19：05 平山春花（演奏：由雄正恒）

転換 5 分

19：10～19：25 泉川獅道

転換 5 分

19：30～19：45 門脇治

～休憩～ 15 分

20：00～20：15 林恭平

転換 5 分

20：20～20：35 中川善浩

転換 5 分

20：40～20：55 RAKASU PROJECT.

転換 5 分

21：00～21：15 大谷安宏

石上和也 ISHIGAMI Kazuya

自作・シンセもどき「HOGE HOGE MACHINE」による即興演奏
HOGE HOGE MACHINE IMPROVISATION

作品解説

1896年(明治29年)、京都の金之森務によって日本初の電子楽器「歩下歩下発生器」が誕生。その噂を聞いた米国のケイヒルはテルハーモニウムを草案したという。また、この新楽器の音を聴いた、日本の空間音像演出装置(当時、アコースモニウムという名称は無い)の父と呼ばれる牛山泰次郎は「真髄は音である。空間では無い」と語ったそう(顕微鏡発明家の渡辺綱吉の回想による)。しかしながら、この新楽器は日の目を見る事無く、時代の激流の中に埋もれていってしまう。

時は過ぎ、1947年(昭和22年)、静岡の楽器製造会社に勤務していた武内昭彦によって「歩下歩下発生器」復元。後に武内はこう語った「古くて新しい楽器である。これからの日本の音楽を変えるかもしれない。否、日本の音楽を取り戻す事になるだろう。我々は占領下にいるが、しかし、音楽だけは取り戻さねば、」しかしながら、武内の努力は当時の日本の音楽界には響かなかった。

そして、更に時は過ぎ、1971年(昭和46年)。総合電機メーカーで昇降機的设计をおこなっていた神戸出身の石上光和が、初老の武内と尼崎のスナック「シャガーレ」で出会う。いつしか意気投合する二人であった。昔から電子工作が好きだった石上は、武内から伝授された「歩下歩下発生器」の改良を進めることを決意する。そして1972年(昭和47年)、大阪の高槻にて、石上に長男が生まれる。名を和也と命名。そして石上は思った「俺は昇降機が専門だからな。歩下歩下は息子に委ねることにしよう」そして光和の夢は、息子の和也へ。今、ここに。それでは聴いていただきましょう！石上和也の演奏で自作・シンセもどき「HOGE HOGE MACHINE」による即興演奏です。どうぞ！！(フィクションです)

プロフィール

石上 和也 ISHIGAMI Kazuya

1972年3月 大阪生まれ。高校時代にノイズやミュージック・コンクレート等に興味を持ちマルチトラック音響作品を作り始める。

1990年、大阪芸術大学音楽学科音楽工学コース入学。1997年、INA-GRMでの夏期アトリエ参加。2005年9月、DRドイツ国営放送にて[Sonic Escapism]初演・放送。2006年6月、DRドイツ国営放送にて委嘱作品 [2nd49]初演・放送。2008年12月、DRドイツ国営放送にて[Whisper of Sound God]放送。2010年2月、OMEGA POINTからアコースマティックCD作品集「発心の兆」リリース。2012年12月、実験音楽雑誌「音人」発行。2012年3月、「神戸電子音響音楽祭」主催。SPEAKERS ORCHESTRA メンバー。

平山春花 HIRAYAMA Haruka

4ch ライブエレクトロニクスのための FRISKOTO (2014)

FRISKOTO for 4ch live-electronics (2014)

作品解説

ここ数年、私自身の楽器とエレクトロニクスの様々な編成の作品の制作の中で、それらの親密な関係性というものは何かということ、そしてその親密な関係性の表出を音楽でどう表現するかということを経験しながら模索してきた。今回の曲では琴の音を素材とし、特に 4ch のスペースと音のコミットメントに関する関心と共に、ライブパフォーマンスにおける即興的な要素とそうでない要素のバランスについて模索している。琴の録音にはケント・澄穂さんにご協力頂いた。

演奏者 (ライブエレクトロニクス): 由雄正恒

プロフィール

平山 晴花 HIRAYAMA Haruka

新潟県出身。6 歳よりピアノを習い、国立音楽大学音楽デザイン学科(現 音楽文化デザイン学科)にて作曲、コンピュータ音楽を葉孝之、コート・リッピ各氏に師事。同大学大学院修士課程修了。現在、マンチェスター大学 NOVARS 研究所にてエレクトロアコースティック作曲の博士課程に在学中。リカルド・クリメント氏に師事。2005 年、第 32 回ブルジュ国際電子音楽コンクールレジデンス部門においてソプラノサクソフォンとコンピュータの為の作品 Swallow がレジデンス賞を受賞。また 2012 年には IAWM 主催女性作曲家による Search for New Music コンクールエレクトロアコースティックメディア部門においてポーリン・オリヴェロス賞を受賞。作曲家としての活動は国内での作品発表に留まらず、ストックホルム電子音楽スタジオ(EMS)でのコンポーザーインレジデンスや、バーゼルを拠点としている Chaotic.moebius からの器楽曲の委嘱、また、国際音楽祭や会議における音楽作品の入選など多岐に渡る。現在まで作品は日本、スペイン、アメリカ、フランス、スウェーデン、ドイツ、カナダ、イギリス、オーストラリア、スイス、オランダ、韓国各国で演奏されている。

泉川 獅道 IZUKAWA Shido

泉川 獅道

SHIDO IZUKAWA

作品解説

優れた楽器はよい身体と心を創る。

磨かれた身体と心は匠の技を生む。

研ぎ澄まされた技は縁に恵まれ文化を成す。

奥深き文化は楽器の誇りを育む。

私の音楽性は日本の精神芸術の極みの一つであった虚無僧尺八文化とその修行に特化した地無し尺八を根本としている。本演目は虚無僧尺八秘曲中の秘曲である「虚空」の世界をネイティブによる一時的・即時的脈略変換によって電子音響の世界に移植し、その表現力を現代文化の中で拡張する試みである。その表現は決して私が天才的に産み出すものではなく、綿々と受け継がれてきた日本の伝統の誇りの上に、また一つ石を積むようなものに過ぎない。しかし、それこそが一つの「古くて新しい」日本の電子音響音楽であると位置付けてみたい。

プロフィール

泉川 獅道 IZUKAWA Shido

尺八奏者、サウンドプロデューサー、音文化研究者。幼少より西洋音楽教育を受け、ピアノや作曲、さまざまな楽器の演奏法等を学ぶ。大阪芸術大学にて電子音響音楽の創作、仏教芸術としての「虚無僧尺八」の演奏・研究の世界に身を投じ、尺八古典本曲を研究した博士論文と現代音楽作品（テーマ：コンピュータを活用した先端テクノロジーと伝統音楽の融合）の創作により芸術博士号を取得修了。伝統的な文化背景・脈略、楽器がもたらす身体性・精神性等を根本に「古くて新しい」日本の電子音響音楽を追究している。グローバル尺八ユニット Kurofune、Speakers Orchestra メンバー。東洋音楽学会、情報処理学会会員。大阪芸術大学、神戸山手短期大学非常勤講師。

門脇 治 KADOWAKI Osamu

テープのための音楽

Musique pour ruban

作品解説

録音テープを媒介としての実験的音楽作品は、かつて電子音楽では大きなシェアを誇っていたが、我々の世代でもオープンリールを目にしたことのない人は多く、それどころかカセットテープすらマイナーなものになってきた。尤もテープの切り貼りや回転数の変化などの技法はコンピュータ上であっさり再現できるようになったが。なので、そういう事ではなく、録音テープではなく、粘着テープなどの発する音を素材とした「テープ」のための音楽ということで、ちょっくらパフォーマンスをしてみたい。

プロフィール

門脇 治 KADOWAKI Osamu

1964年塩竈市生まれ。宮城教育大学卒および同大学院修了。作曲を故本間雅夫、吉川和夫の両氏に師事。

林 恭平 HAYASHI Kyohei

蝶

b u t t e r f l y

作品解説

作曲 林 恭平

ミニ・ヴィブラフォン演奏 山田 あい子

蝶、普遍的な色彩を表現したいと、この曲を創作しました。今まで私が創作してきた電子音響音楽は、私の私情がどうしても強く表出する形となっていました。今回は、もっと普遍的な美しさを、電子音響音楽と、生身の人間による演奏によって表現しようと試みました。そして、予め録音された電子音響音楽の中で楽器を演奏する姿なき奏者と共に。

曲の構造は蝶の生態の示す通りに、卵-幼虫-蛹-成虫、と4つのパートに分かれています。

生演奏の為の五線譜は、図形楽譜の中に書き込まれ、それぞれの音型は「0:03～ ～0:06(秒)」という風に記され、奏者はこの間の時間なら自由なテンポで演奏することが可能です。今回、図形楽譜の中に五線譜を記すと、電子音響音楽の波形グラフと五線譜が視覚上合わないので、五線譜は拡大する形で図形楽譜に記し、それぞれの拡大した音型の最後に波形グラフの時間軸と合う様、赤い線を引きました。

ミニ・ヴィブラフォンによる、4つのパートそれぞれに於ける旋律は、メシアンの「移調の限られた旋法」の第3番を用いて演奏され、最後の1音を除き、CからBまでの12の音だけで演奏されます。第3番の旋法は4つの調しか存在せず、それぞれの4つの調は、4つのそれぞれのパートへ適用されます。つまり、パート1には第1移調、パート2には第2移調……、という風に。ただし、パート3に用いられる音は、Fis、F、C、の3音のみで、この3音だけでは、「移調の限られた旋法」の第3移調のものなのか(または、まったく別の旋法の可能性も考えられる)、故意に解らない様にしてあります。何故なら、パート3は蛹の状態を表しており、蛹の中身は未知の空間……、誰にもわからないのであって、無理に中を覗こうとすると蝶は息絶えてしまいます。さらに、パート4のみ4つの調全てが用いられ、パートの後半部曲の終わりから8秒前にはじめて、第4移調が響きわたります。

また、パート以外のそれぞれのパートの冒頭と、パート1、2の第6番目の音型に、そのパートを象徴する1音を鳴らし、それらの象徴音は蝶の成長の扉をあける鍵(Key)となっており、パート1はB、パート2はA、パート3はFisの音が象徴音となります。

パートが続くに従い下降する象徴音は、パート4(つまり成虫のパートにおいて)、パート1から3までが逆順序で現れることにより、今度は上昇することになります。つまり、パート3、2、1の順番に象徴音がならされ、蝶は上昇し、6分4秒よりパート2の、次いでパート1で鳴らされた旋律の逆行形の旋律を奏でます。ただし逆行形そのままでは無く、ここでは、パート1、2において、それぞれの第6音型だった箇所に添加音を加え、それは、蝶が成長したことを表しています。

大正琴は弓によるドローンの演奏を行い、パート3から演奏を開始します。Cの音から始まりますが、この音は第1移調、第2移調、第3移調の共通音、つまり前半3つのパートにおける共通音となっており、卵、幼虫、蛹、と姿は変化はしているがある一つの生命であることをCの音が表しています。パート4に入ると同時に（つまり、蛹から蝶になると同時に）、大正琴はDesの音を奏で上昇し、5分51秒よりEsの音を奏で、そしてさらに飛翔し、ミニ・ヴィブラフォンがパート1とパート2の逆行形の旋律を奏でる6分4秒より、Eの音（第1移調、第2移調共通音）を大正琴は奏でます。

そして、6分28秒より以降、ミニ・ヴィブラフォンと大正琴は第4移調を奏で、両楽器ともに上空を目指します。

電子響音楽からの合図が鳴り、両楽器はFis、A、Bの3つの音（前3パートの象徴音）、/をシンクロしながら奏で、最期の1音、Cの音、1オクターブ上のCの音、つまりここで始めてオクターブの壁を破るのです。さらに、このCの音は第4の移調には含まれていない音であり、蝶はその地上を離れ彼方へ飛んで行ったのです……。

演奏者プロフィール（ミニ・ヴィブラフォン演奏担当）

山田あい子

愛知県出身。大学卒業後、広告代理店で勤務するかたわら主に近現代曲のピアニストとして活動。

全日本ソリストコンテスト好演賞受賞。その後大阪芸術大学通信教育部にてコンピュータ音楽を学ぶ。

プロフィール

林 恭平 HAYASHI Kyohei

1984年福井県で生まれる。2012年、大阪芸術大学大学院作曲コース修了。七ツ矢博資、上原和夫、宇都宮泰、檜垣智也、に師事する。在学中より、電子音楽の創作を行い、芥川龍之介の提唱する「話らしい話のない小説」を電子音、具体音によって表現した文学性に溢れた電子音楽作品は、国内外で多数、入賞、入選を果たし高い評価を得ている。また、音楽作品だけではなく、映像制作も同時に行っている。日本電子音楽協会会員。日仏現代音楽協会会員。

入賞・入選歴 <2013:『sakura』 International Computer Music Association 入選/『Expressionless bicycle rider OK』 Nit electro sonora(スペイン) (映像作品) 入選><2011:『sonic lady city』 Prix Russolo(フランス)入選/『L'Etranger』 Contemporary Computer Music Concert(日本)MOTUS賞><2010:『action painting music』 Contemporary Computer Music Concert(日本)入選> 上演歴・放送歴<2014:『Stained-glass windows the sky』 Concertzender Nederland (ラジオ) (オランダ)><2013:『sakura』 International Computer Music Association (オーストラリア) /『Expressionless bicycle rider OK』 Nit electro sonora(スペイン)><2012:『Broadcast Yourself』 SYNTAX 11.2 L'Art radiophonique(フランス) /『sonic lady city』 Traces de sons(フランス)/『L'Etranger』 Futura(フランス)><2011:『L'Etranger』 elektramusic (ウェブラジオ) (フランス)><2006~2009.: Audio Art Circus 06,07,09,2010(日本)> CD出版<2012: "Eros' Weapons" Studio Forum Monochrome Vision (ロシア)>

中川 善裕 NAKAGAWA Yoshihiro

Variations of the sea for electro acoustics

”海のバリエーション” --電子音響の為の。

作品解説

この作品は、日本各地、韓国、台湾などで採集した海の波音を素材に、波音と電子音響の交錯する、超自然的な音響世界を構築することを意図した作品である。私にとって海の波音は、絶えることなく変化し続ける理想的な音楽形式のひとつであり、また人間の聴覚や皮膚感覚を刺激する、体験できるノイズでもある。今回は、これらの波音の断片化処理したものを再構成し、それをFFT解析の結果に基づくスペクトル合成を付加してゆくことで、数種のバリエーションを作成していった。

プロフィール

中川 善裕 NAKAGAWA Yoshihiro

札幌生まれ。北海道教育大学札幌校教員養成課程（音楽）、東京芸術大学音楽学部作曲専攻、同大学院音楽研究科作曲専攻修士課程卒業。これまで作曲を木村雅信、南弘明、黛敏郎、林光の各氏に師事、電子音楽法を南弘明氏に師事した。長谷川良夫賞受賞（東京芸術大学）、第58回日本音楽コンクール作曲部門（室内楽）入選、第25回交響楽振興財団作曲賞入選・奨励賞受賞。現在、埼玉工業大学人間社会学部情報社会学科デジタル表現コース（教授）、東京芸術大学（非常勤講師）、洗足学園大学（非常勤講師）。日本電子音楽協会、日本作曲家協議会、先端芸術音楽創作学会、各会員。

RAKASU PROJECT.

タイトル「壇ノ浦」(だんのうら)

Dannoura

作品解説

日本古来の戦記物語である『平家物語』のクライマックス、源氏と平家の最後の戦いとなった壇ノ浦合戦(1185年)を琵琶法師が語るシーンをテーマにした電子音響音楽作品。RAKASU PROJECT.と琵琶奏者・荒井靖水による「耳無し芳一」公演(2014年3月)の中の1作品。

これをベースとし、ラップトップコンピュータに内蔵された・あるいは接続された各種センサ等により即興演奏を行います。

琵琶・語り：荒井靖水(ARAI Seisui) (*当日不参加)

薩摩琵琶奏者。6歳より祖父・中谷襄水、母・荒井姿水に薩摩琵琶の手ほどきを受ける。また、高校よりフルートを始め、洗足学園音楽大学管楽器科卒業。その後、NHK邦楽技能者育成会(第42期)にて研鑽を積み、1995年日本琵琶楽コンクールにて秀位入賞。現在、古典ならびに現代邦楽を軸に、他ジャンルとの競演を試みている。CD、DVDの録音やPVへの出演、また、舞台での音楽担当も多数。2008年国際交流基金主催・各国大使館共催 Group BAKKにてロシア・東欧6都市ツアー参加。長野オリンピック開催記念事業演奏、NHK主催・熊野世界遺産登録記念一青窈熊野コンサート、高德院(鎌倉大仏)野外コンサートなど、演奏多数。NHKはじめメディア出演も多く、国内外を問わず広く活動する。このほか幼稚園や学校公演等の活動では、楽器体験コーナーを設けるなど「聴いてさわって楽しめる」音楽をコンセプトにしている。薩摩琵琶錦心流中谷派襄水会会員。

プロフィール

RAKASU PROJECT.(落 晃子)

京都市在住、音楽家。広島大学学校教育学部(現・教育学部)中学校教員養成課程音楽科卒業、広島大学大学院学校教育研究科音楽教育専攻修了。電子音響音楽から商業音楽制作まで、幅広い活動を行う。坂本龍一・矢野顕子プロデュースアルバム「Demo-Tape1」、坂本龍一トリビュートアルバム「music plans skmt tribute」参加。2005年には「昭和40年会 七人も侍」展(広島市現代美術館)にて、土佐正道、九十九清美とともにバンド「前明和電機社長土佐正道とThe広島グッドデザイン」(現：『明和電機会長土佐正道とThe広島グッドデザイン』)を結成、広島と東京でライブ活動を行う。2006年から、サウンドアーティスト有馬純寿とラップトップデュオユニット「RPSA」を結成、全国各地でライブ活動を行うほか、フジタダイスケ、酒井康志、寺内大輔、船田奇岑、等、多数のアーティストと共演。近年では、コンピュータに内蔵された各種センサーを使用したパフォーマンスや、Max/MSPやGainerを活用したサウンドインスタレーション制作なども手がけている。現在、京都精華大学ポピュラーカルチャー学部特任准教授。同志社女子大学と帝塚山学院大学で非常勤講師を務める。

大谷 安宏 OTANI Yasuhiro

guuitaarre

作品解説

SONOGRAPHIC SOUND PROCESSING IN REALTIME

for Electric Guitar & Max with SPAT

断片は断片でしかなく
世界は粉々になるのがいい
つながりはますます多くなり
もうなにひとつすることはない

プロフィール

大谷 安宏 OTANI Yasuhiro

音楽家。ギターとコンピュータで即興～ジャズ～電子音響。ライブイベント「U:Gen laboratory」,
「とらわれのギター」オーガナイザー。ロックフェラー財団日米芸術交流プログラム助成アーティスト。
日本電子音楽協会会員。日本作曲家協議会会員。



2014年7月12日
林 恭平

第3回電子音楽なう！
林 恭平出品作品
解説(訂正済)

・作品解説

作曲 林 恭平

ミニ・ヴィブラフォン演奏 山田 あい子

蝶、普遍的な色彩を表現したいと、この曲を創作しました。今まで私が創作してきた電子音響音楽は、私の私情がどうしても強く表出する形となっていました。今回は、もっと普遍的な美しさを、電子音響音楽と、生身の人間による演奏によって表現しようと試みました。そして、予め録音された電子音響音楽の中で楽器を演奏する姿無き奏者と共に。

曲の構造は蝶の生態の示す通りに、卵－幼虫－蛹－成虫、と4つのパートに分かれています。

生演奏の為の五線譜は、図形楽譜の中に書き込まれ、それぞれの音型は「0:03～～0:06(秒)」という風に記され、奏者はこの間の時間なら自由なテンポで演奏することが可能です。今回、図形楽譜の中に五線譜を記すと、電子音響音楽の波形グラフと五線譜が視覚上合わないの、五線譜は拡大する形で図形楽譜に記し、それぞれの拡大した音型の最後に波形グラフの時間軸と合う様、赤い線を引きました。

ミニ・ヴィブラフォンによる、4つのパートそれぞれに於ける旋律は、メシアンの「移調の限られた旋法」の第3番を用いて演奏され、最後の1音を除き、CからBまでの12の音だけで演奏されます。第3番の旋法は4つの調しか存在せず、それぞれの4つの調は、4つのそれぞれのパートへ適用されます。つまり、パート1には第1移調、パート2には第2移調……、という風に。ただし、パート3に用いられる音は、Fis、F、C、の3音のみで、この3音だけでは、「移調の限られた旋法」の第3移調のものなのか(または、まったく別の旋法の可能性も考えられる)、故意に解らない様にしてあります。何故なら、パート3は蛹の状態を表しており、蛹の中身は未知の空間……、誰にもわからないのであって、無理に中を覗こうとすると蝶は息絶えてしまいます。さらに、パート4のみ4つの調全てが用いられ、パートの後半部曲の終わりから8秒前にはじめて、第4移調が響きわたります。

また、パート以外のそれぞれのパートの冒頭と、パート1、2の第6番目の音型に、そのパートを象徴する1音を鳴らし、それらの象徴音は蝶の成長の扉をあける鍵(Key)となっており、パート1はB、パート2はA、パート3はFisの音が象徴音となります。

パートが続くに従い下降する象徴音は、パート4(つまり成虫のパートにおいて)、パート1から3までが逆順序で現れることにより、今度は上昇することになります。つまり、パート3、2、1の順番に象徴音がならされ、蝶は上昇し、6分4秒よりパート2の、次いでパート1で鳴らされた旋律の逆行形の旋律を奏でます。ただし逆行形そのままでは無く、ここでは、パート1、2において、それぞれの第6音型だった箇所に添加音を加え、それは、蝶が成長したことを表しています。

大正琴は弓によるドローンの演奏を行い、パート3から演奏を開始します。Cの音から始まりますが、この音は第1移調、第2移調、第3移調の共通音、つまり前半3つのパートにおける共通音となっ

ており、卵、幼虫、蛹、と姿は変化はしているがある一つの生命であることをCの音が表しています。パート4に入ると同時に(つまり、蛹から蝶になると同時に)、大正琴はDesの音を奏で上昇し、5分51秒よりEの音を奏で、そしてさらに飛翔し、ミニ・ヴィブラフォンがパート1とパート2の逆行形の旋律を奏でる6分4秒より、Eisの音を大正琴は奏でます。つまり、ヴィブラフォンとは別に第4移調を奏でながらも、ビブラフォンの示唆する音階と共通の音を選び取りながら大正琴は蠢くのである。

そして、6分28秒より以降、ミニ・ヴィブラフォンと大正琴は第4移調を奏で、両楽器ともに上空を目指します。

電子音響音楽からの合図が鳴り、両楽器はFis、A、Bの3つの音(前3パートの象徴音)、/をシンクロしながら奏で、最期の1音、Cの音、1オクターブ上のCの音、つまりここで始めてオクターブの壁を破るのです。さらに、このCの音は第4の移調には含まれていない音であり、蝶はその地上を離れ彼方へ飛んで行ったのです……。